

市長と語る～まちづくり懇談会～ 岩村

日時：令和元年8月6日（火）午後7時～9時

場所：岩村コミュニティセンター

地域自治区会長あいさつ

■司会 主催者を代表し、岩村地域自治区会長があいさつする。

■会長 今日は市長から主要事業の説明をしていただき、その後意見交換会をし、将来の岩村町の姿を見つけない。「半分、青い。」で岩村町の方向性も見つかったような気がする。平成28年度の計画で「消滅しないぞ、岩村」をテーマに、訪れたいまち。住み続けたいまち。子どもの笑顔が見えるまち。という形で進めているので、それを今日の意見交換会でグレードアップし、今後の岩村城下町の魅力をもっとアピールしていくために、今日の時間を大切にしていきたい。皆様の意見と市長の意見と合わせた力強い方向性を作り出したいと思っているので、今日の懇談会をしっかりとしたものにするため協力してほしい。

■市議 懇談会は13地域であと5つになった。すでに半分以上済んでいる。岩村町では執行部が一生懸命考えた案が出るので、ぜひ忌憚のない声を出すと思う。小さな自治体、頑張っている自治体はどこも反対・賛成の意見をみんなが声を出しているところが一番いいまちづくりをしていると思う。さらに、市長は賛成の人も反対の人も、右の人も左の人も、みんなの意見に耳を傾けるといってもいい姿勢を持ってみえるので、大いに声を出すことが大事だ。

「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業について

■市長 岩村町について。人口は平成17年5,502人、平成30年4,902人で、世帯は1,692世帯が一度上がってその後少し下がってまた持ち直し、平成30年1,818世帯。生まれた子どもは、平成17年57人、平成30年31人。若干持ち直してはいる。

公共交通。昨年からはデマンド型がスタートした。利用者は若干伸び悩み、267人。バスは上矢作線が岩村駅を起点と終点にして動いている。公共交通はどこの地域でも大きな課題だ。何とかこれをこれから先存続できる仕組みを作っていきたい。

事業について。岩邑小学校の体育館の天井の耐震化工事は、夏休みの間に終わる予定。3,300万円ぐらい。岩村診療所は人工透析のシステムの入替を昨年と今年の2カ年でやっている。20床分がほぼ完成に近づいている。土地改良は山岡・岩村地域の合同で今年度から動く。富田の用排水路の修理がここに入ってくる。マレットゴルフ場の休憩施設もすでに予定している。事業がこれから動き始め10月には完成する。岩村城の立木の伐採をし

た。一部、駅辺り、本通りの途中から石垣が見えるようになったと聞いている。何とか活用してほしい。ふくろうまつりは、今年の「半分、青い。」に引き続き今年も7月7日に行った。いろいろな事業を、県も協力していただいたので、こうした形でメモリアルのイベントとしてこれからも続けていけたらと思う。

ラリーは、クラシックカーなども来ているし、L1 ラリーの予定も今年も同じようにされており、11月9、10日に本通りも走ると思う。来年にはWRCも走る。また注目も浴びると思うし、いろいろな意味で世界各地に情報を拡散していけると思っている。

意見交換会 城下町いわむらの魅力アップ

■司会 趣旨説明、現状の報告を順番に行う。

■協議会事務局長（振興事務所長） 本日の第2部ということで、これから皆さんと地域自治区との間で岩村町のまちづくりについて一緒に考えていきたい。

岩村町は、平成28年度に策定した地域計画の中で、「消滅しないぞ、岩村」というのをキャッチフレーズにし、3本の基本目標を掲げている。訪れたいまち。住み続けたいまち。子どもたちの笑顔あふれるまち。「子どもたちの笑顔あふれるまち」は、子どもたちだけではなく、岩村町のみんなが笑顔あふれるまちということで、今は「みんなの笑顔があふれるまち」ということで、まちづくりに取り組んでいる。

特に、「消滅しないぞ、岩村」を目指していくために、今皆さんとどういうことを考えればいいのか。先ほど来、市長からの説明にもあったが、岩村町は昨年度「半分、青い。」の影響や、岩村城が雑誌等で上位にランキングされるなど、全国的に非常に注目を集め、今までにない多くの人々が訪れてきた。これだけ岩村町が全国的に注目を集めているときに、もう一度岩村町の皆さんと岩村の魅力について考え、今岩村町がどうなっているかをこれから報告するが、そういうところで皆さんと現状を共通認識し、課題を一緒に考えていただき、これからのまちづくりを考える機会に今日はしたい。初めに、岩村町の現状や課題について。後ほど御意見をいただくに当たっては、これから若い人たちがたくさん残って岩村町のまちづくりを今後続けていただくことが非常に大事なので、あえて中学生や高校生にも来てもらった。

■観光協会岩村支部事務局長 岩村町の観光の実態について報告する。一昨年から「半分、青い。」に始まり「半分、青い。」に終わったということになるが、800年の歴史を誇る岩村城、あるいは400年の伝統ある岩村城下町、農村景観日本一の富田地区など、そういう観光資源があったからこそ「半分、青い。」を生かしてまちづくりをすることができたと考えている。去年は確かにお客さんが増えたが、どれぐらいの人が来たかはなかなか把握しにくい。街の中で数えるわけにはいかない。そこで、歴史資料館や町屋の施設の入館者の推移を見ていただきたい。

歴史資料館の入館者数の推移。平成 29 年と平成 30 年はあまり変わらない。平成 28 年から平成 29 年の伸び率が 30%で、平成 29 年から平成 30 年は 20 数%。平成 29 年には大河ドラマ女城主直虎が放送された。NHKでは 45 分間にわたり「歴史秘話ヒストリア」で女城主を取り上げていただき、あいまって山城ブーム、歴女などの要素が平成 29 年にあったため、伸び率が多かった。平成 30 年は「半分、青い。」もあり、相乗効果もあって、変わらず 20 何%も伸びている。3 年ぐらい前、続日本百名城が発表された。岩村城は百名城だ。百名城の価値が見直されたということもあり、歴史資料館の入館者数が増えてきている。今年度も減っていない。4 月などは去年より増えている。歴史、山城ブームも依然として続けし、岩村城もさらに入館者数が伸びてくると考えている。

ふれあいの館町屋施設の木村家、土佐家、勝川家、柴田家、加納家の入館者数の推移。昨年は「半分、青い。」もあって圧倒的な伸び率だ。ただ、木村邸へ行った人が土佐屋へも行く、勝川家も行くということで、延べ人数だと考えると、2 分の 1 か 3 分の 1 で見ていただくといい。

観光協会では観光ガイドにお願いしてガイドを昔からやっている。観光ガイドも、同じように、昨年は圧倒的な伸び率で、特に秋はすごい数の人 came。昨年多いのは当然だが、一昨年の平成 29 年と比べると、4 月と 6 月しか統計が出ていないが、その観光案内者数は、今年は 29 年より 20%増えているし、観光ガイドの件数も 28%増えている。したがって、「半分、青い。」の年のようにはいかないが、その前の年をはるかに上回っている。

昨年はいろいろいいことがあった。岩村城跡が「旅好きが選ぶ！日本の城ランキング 2018」全国第 10 位にランクインした。去年 8 月 28 日にトリップ・アドバイザーからそのメールが来た。1 位は姫路城、ほか、そうそうたる城の中で岩村城が 10 位、国宝彦根城は 14 位、名古屋城が 16 位。観光資源としての価値が認められたと考えている。

今年 2 月 16 日に、日本経済新聞が、日経プラスワン「一日散策満喫できる魅力的な城下町」ということで、石高が 50 万石以下の城下町で、岩村城下町が第 8 位に入った。10 位以下にも、犬山の城下町、新潟の村上市、萩、そうそうたるところが岩村町より後に入っている。岩村町の城下町も本当に有名になってきたと思っている。

ロケーション・ジャパン大賞というのがあり、今年で 9 回目だそうで、1 年間に放送や公開された映画、ドラマ、アニメの中から、最も地域を沸かせて人を動かした作品や地域に送られる。8 千人のアンケートによる支持率、地域側の態勢面を見る。撮影のサポート度、行楽度、地域の変化など、総合的にポイント制で順位を決める。「半分、青い。」は岐阜県いろいろなところでロケをやったということで岐阜県となっているが、グランプリに輝いた。ますます岩村町の知名度が上がったと思う。

昨年は「半分、青い。」展を 4 月から 9 月の終わりまで勝川家で行った。それにも 7 万人以上が来てくれたし、ふくろうまつりも開催した。「半分、青い。」のドラマの関連商品も

56 品目を作って販売した。旧岩村振興事務所に岩村休憩所を設置し、そこに「半分、青い。」のロケで使われた看板や写真を掲示し、昨年 7 月からそこを開館した。今年の 3 月まで、毎日ではないが 229 日間開館して、6 万 5 千人が休憩所を訪れ、1 日平均で 280 人ほどが来て、「半分、青い。」のロケの雰囲気を楽しんだ。

■訪れたいまち部会部会長 私からは、観光地としての活性化ということで、それについての岩村町の主要事業の現状と課題をお知らせしたい。

岩村城跡清掃作業。岩村城跡の保全や観光振興のため、1 年に 2 回、5 月と 7 月に開催されている清掃作業。ほっと岩村、観光協会、城を守る会ほか、中学生や消防団、地域住民、市外の協力者によって行われている。この課題としては、広報紙などでは告知しているが、参加者が年々少なくなっているということ。本丸の石垣の清掃作業。消防団、一般市民のボランティアなどで実施されている。こちらが毎年中学生の多数の人に参加している。

ふくろうまつり。昨年度放送された NHK 連続テレビ小説「半分、青い。」のロケ地となった商店街を会場に、岩村町の活性化を図るために平成 30 年 4 月から始められたお祭り。ドラマ設定の昭和の雰囲気を再現するために、住民から提供していただいたものを展示したりしている。今年 4 月までに延べ 11 回開催した。多くの観光客で賑わった。先月 7 月 7 日、出演された高木渉さんがみえて、律くんと鈴愛さんの誕生日の七夕の日にお祭りをした。

岩村城下おかげ祭り。秋の収穫の喜びと郷土の感謝を伝える場として、コミセンの駐車場で行われていた産業祭を岩村町本町から岩村駅に場所を移して行っている。ミニ SL の乗車体験や子どもたちが楽しめる子ども横丁、五平餅などを販売するにぎわい横丁、まんぷく横丁、炭火でシイタケなどを焼いて食べる七輪横丁、旧岩村町からのゆかりの地の特産品販売など、街並みがにぎわうことの楽しさを再発見してもらうお祭り。課題は、近年地元の人たちの来場が少なくなっているところ。昨年度のおかげ祭りには若い人や家族連れも多くみえた。

岩村城下町のひなまつり。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている城下町とその周辺約 110 カ所に、江戸時代から伝わるひな人形や見事な五点びな、色鮮やかな土びななど、約 3,500 体のおひなさまが展示されている地域最大級のひなまつり。3 月から 1 カ月間にわたり多様なイベントを行っている。開催に合わせて子どもたちも粘度びな作り、町内各自治会、商工会女性部の皆様にも餅花作りを協力してもらっている。子どもたちによる粘度びな作り。五点びな、金魚びなを展示。

以上 3 つのイベントに共通する課題は、町内で開催しているので、来場者が増えるとゆっくり楽しんでもらうことと安全のために通行止めが必要になり、交通警備員の費用がか

かることと、ボランティアスタッフが増えにくいこと。

■住み続けたいまち部会部会長 岩村町における空き店舗対策について発表する。岩村町本通り商店街には、現在空き店舗が多数ある。この空き店舗問題は全国的にも問題になっている。近年ドラマやお城ブームなどで岩村町を訪れる観光客は増加している。空き店舗が目立つ寂しい街ではなく、いろいろな店がある活気ある街になり、岩村町を訪れる人の増加、リピーターの増加、街全体の活気につながればよい。

恵那市には空き店舗対策として、恵那くらしビジネスサポートセンターや、恵那市商工振興補助金といったものがあり、新しく開業したい人の援助をしてもらえる。空き店舗を利用して開業した店は何軒もあるが、ここ1年ぐらいにできた店をいくつか紹介する。

本町4丁目、郵便局の向かい、「ちょっと古いもん屋」。明治から昭和の古いものを展示、販売している。恵那市内の人が退職後に始め、以前は柳町や本町5丁目で店を開業していたが、4月からこの場所に移転した。元々この場所は知っていたようだが、知人から勧められ新店舗になった。特に行政の補助金、援助は受けていないようだ。

その隣、「マサチロ雑貨店」。木でできたお皿、椅子、いろいろな雑貨を販売している。ご主人は岩村町出身、在住で、殿町に作品を製作する工房がある。前からお店を開きたかったということでこの場所を紹介され、今年の7月から金曜日と土曜日に開店している。この店も補助金等は利用していないようだ。

本町5丁目の「HYAKKEI (ひゃっけい)」。主にレンタルスペースとしていろいろな人に活用してもらう店。週末には喫茶店などもやっている。家主を含めた有志4名で経営している。家主が市に相談に行き、そこからつながった4名で家主のやりたいことなどを話し合って運営している。こちらは市の空き店舗の補助金を活用され、残りは家主と、クラウドファンディングを活用して資金を工面したそうだ。開業に当たって資金のこと、設備のこと、みんなの意見を合わせることなどが大変だったそうだ。

西町の「ふくろう市場」。地元特産品を販売する土産屋。株式会社えーないわむら役員の融資の出資で、街なかに地元特産品販売店がない、街なかの中心部で空き店舗が観光地として寂しく思い、何とかしようと思った、ということで、家主と交渉し、5月から金土日祝日営業の店として開業した。補助金は受けていないそうだ。

そのほかに、西町の渡辺理容店の跡に「ペットの休憩所、ペットの雑貨店」という店が、貼り紙がしてあるが来年2020年にオープン予定。西町2丁目にも、「やましろや」が開業されている。土日営業のようで、かき氷等を販売している。

このように、空き店舗を利用して街が活性されることはすばらしい。しかし、お店の人と話をしているうちに課題も見えてきた。ボランティア感覚ではなく利益を出して持続することが大事ということ、行政等の補助制度、サポートをもっと利用するとよかった、そ

の情報をどうやって知るか、貸し手と借り手のつながりをどうやってつなげていくのかという課題がある。それぞれ異なる方法で開業されたお店だ。補助金等をあまり利用していないことに少し驚いたが、市の空き家バンクなど行政サービスを利用していただき、もっと町民参加型でまちづくりを行い、いろいろな人が活躍できるまちになり、町民参加型のまち、人の活性化からまちの活性化へとつながることを望む。

■笑顔があふれるまち部会部会長 この部会は郷土の先人を生かした取り組みを報告する。

岩邑小学校では近年ふるさと教育の推進に力を入れている。子どもたちが地域に根差し地域に学ぶという取り組みだ。岩村町には全国に誇れる先人から学ぶふるさとの教えというものがある。ふるさとの文化を積極的に学び、ふるさとを愛する心を育てる、そして、ふるさとに語り継がれる教えを理解して自分の生き方につなげていくという目的で、佐藤一斎先生の教えを地域と連携して取り組んでいる。岩邑小学校とNPO岩村一斎塾の皆さんとの事業のコラボ、連携事業として行った。

昨年、佐藤一斎先生の言葉の解説が聞けるスマホアプリ、QRコードの作成や、言志四録の木版に子どもたちがQRコードを貼る作業などを行った。さらに、言志四録の言葉は、どこに貼ってあるのかということ子どもたちがみんなで調べて、言志四録言葉マップの作成をした。多くの子ども、先生がかかわり、本当にすばらしい事業になったと思う。また、この先人学習の中で郷土愛が生まれることを願っている。今回児童たちが取り組んでくれたことは、岩村観光の魅力アップにつながる内容だったと思う。

多くの先人を輩出してきた岩村町だ。先人からの教えを引き継ぎながら、生涯学習の推進、さらには先人教育や学びを観光資源としてつなげていく必要が、この岩村町には必要だと思う。旧岩村振興事務所の跡利用を地域で今検討しているところだが、やはり観光関係の施設として利用することが望ましいと思う。そこで新たに観光の魅力アップの事業として、お土産物などのほかにも、生涯学習を観光としてキーワードで取り入れていったらどうかという意見もこの部会で出ている。恵那のふるさとの先人30名をキーワードにして、楽しく分かりやすく学べる施設にしたらどうかという意見もこの部会で出ている。

最近の取り組みは、一昨年前に市長との懇談会でふるさと納税のことについていろいろな質問をさせていただいた。ふるさと納税、岩村町に応援してくださいというチラシ、またPRしていくことが大切だということで、宿題として、この1年間いろいろ考えながら作った。今日の資料にも入っている。7月末からイベントでPR、各住民にも配っている最中だ。今度の縁日にもたくさんの方省客がみえるということで、これを夏から秋にかけて、地域みんなでふるさと納税の応援者を募るということ今取り組んでいる。先ほど市長が言われた、ふるさと納税のことで関係人口のことを詳しく説明されていた。ふるさと納税の応援者を岩村町で募るということは、本当に、お金を貯めたいという、お金がほしいと

いうことではなくて、寄付金がほしいということもあるが、やはり、かかわっていただく人、町外でかかわっていただく人をいかに作っていくかということが、私たちの大きな課題だと思う。また、関係人口のことについて、やはり岩村町に何度も来ていただく、岩村町が大好きな人が新しい岩村の風になると考えている。いろいろな人が積極的に、意欲的に岩村をお手伝いしたい、応援したい、何か岩村町のことについてまちづくりで考えていきたいという人がこれからたくさん増えることを願っている。

ただ、そういった風の人たちがいろいろな意見を言われたり提案をしたときに、私たちがどう受け止めどう対応し、どう聞き入れていくかがまだ整理できていないが、そういう人たちと一緒に岩村町をどうしていくかを検討したり議論するような会ができればいいと思う。とにかく、関係人口をこの岩村町で、皆さんで声をかけてもらいながら、たくさん人口を増やしていくというのが、今後の岩村町のまちづくりの課題だと思う。

■司会 中学生からの意見をいただく。

■市民1（中学生） 岩村町の主要事業、ふくろうまつり。「半分、青い。」の流行に乗って始まったイベントだと思う。正直、学生の身としては、開催する回数が多すぎて、いつ開催されるのかとかどれぐらいの規模なのかが分からないと、友だちと遊ぶときに「ちょっと暇だしここへ行こっか」というノリで行けないところが問題。岩村町が目指す地域の姿として、全員が笑顔になるまちということだが、今の岩村町のまちの姿を見ると、女城主など大人向けのものが多いと感じる。子どもが遊べる場所、公園だと、石畑公園が岩村町内に1つだけあるが、小さいと思う。子どもと地域の人に触れ合える場所も少ないので、全員の笑顔があふれるまちというにはまだまだ遠いという気がする。

■市民2（中学生） 岩村城跡のことで、ボランティアの人数が少ないと課題で出ているが、岩村城はボランティアとしてたくさんの岩邑中学の生徒が清掃を行っている。こういうボランティアが、中学生の中では城山清掃だけなので、もっとボランティア活動も中学生がお世話になっている岩村町に貢献するためにしていきたいとみんなが思っていること。岩村町に恩返しができるように、いろいろなボランティアの活動があったら、中学校に話をいただくと参加できる。いろいろなボランティアに活動していけるように、中学生ができることをもっとしていきたいと思っている。そういうのがあったらお話を中学校にただけいたら、どんどん参加していきたいと思う。

■司会 ふくろうまつり、もっと遊べる場所がほしい、ボランティア活動の場所をたくさん設けてほしいという話があった。観光協会から説明を。

■観光協会岩村支部事務局長 どうもありがとう。ふくろうまつりに関しては、PR、開催の周知が皆さんの方へ広がっていないということ。そういったイベントの開催を、もっと分かりやすく子どもたち、若者が分かりやすくできるよう、今後考えていきたいと思って

いる。

ボランティアに関しても、今清掃活動は中学生としている。おかげ祭り、ひなまつりというところへ協力していただけるように今後頑張っていくので参加してほしい。

■司会 遊び場については後で市長にお答えいただきたい。高校生からの意見をいただく。

■市民3（高校生） 私は今の岩村町は若い人に向けてのお店が少ないと思っている。去年「半分、青い。」の影響でお店は増えたが、まだ若い人向けの店がないと思っている。城下町としても栄えているので、城下町の雰囲気崩さないようなお店などを企画できたらいいと考えている。私たち岩村町民も楽しめるような店もできたらいいと思う。

■市民4（高校生） 岩村町は「半分、青い。」の効果で経済的に注目を浴びたまちだが、住民としては環境面により一層力を入れていくことでまち全体が豊かになったりしてつながらんと思う。たとえば、私が利用する駅の写真を撮るスポットみたいなものがあるが、そこや、城下町での案内の看板など、目に見えるごみや虫の死骸がよくあるので、そういったものをなくせると来やすいまち、住みやすいまちになると思う。

■市民5（高校生） 私は岩村町における観光実態と外国人に対しての観光への不十分なところについて話す。

まず、岩村町における観光実態。去年、朝ドラの「半分、青い。」が岩村町で撮影されたことで、観光客がとでも増えた。平成28年、平成29年の入館者数と平成30年を比べると、朝ドラの影響で増えていることが分かる。でも、令和元年にはまた減っている。なので、平成30年のように観光客が増える、かつそれを保つために、岩村町は空き家がまだ多いと思う。それを利用して子どもでも大人でも楽しめるようなお店を新しく作ったり、観光客は食を目的に旅行している人が多いので、もっと、岩村と言ったらこれというような食べ物を作って売ったらいいと思う。あと、今はなくなってしまったが、昔カネニという店があって、その店はいつも手作りのものがあり、お客さんも多く、岩村の人でも近くで買いにいった。なので、カネニのような店を作ったらもっと良くなると思う。

次に、外国人に対しての観光の不十分なところについて。最近日本に外国人観光客が増えており、岩村町も外国人が増えている。それで今不十分だと思うことは、多言語化への対応だと思う。やはり英語や中国語でしゃべったり答えたりすることは難しいと思うので、外国語対応のネイティブ・スピーカーを使うことで、細かいところまで行き届いてコミュニケーションとサービスにもすごく役立つと思うし、案内する人も楽になると思う。

あとは、観光マップやパンフレットなど、日本語版、英語版、中国語版など、さまざまな国の人に対して適したものを作れば、外国人ももっとよく岩村のことを理解して、また来たいと思ってくれると思うので、大変だと思うが、作った方がいいと私は考えた。

■司会 高校生はやはり細かいところを見ている。観光面、環境面の質問があった。観光

協会からお願いします。

■観光協会岩村支部事務局長 観光客をもっと増やしたいということ。昨年の「半分、青い。」は今年もまだ余韻がすごくある。ガイドを頼むと、2年前までは、西町のふくろう商店街は案内のコースから外れていたが、まだ今年もぜひ「半分、青い。」のロケ地を回って城下町を巡っていきたいというお客さんがかなりみえるので、それをまず大切にしたい。それと、来年から「麒麟がくる」が始まる。その関連で、特に明智光秀のお殿様が織田信長であったということで、信長は岩村城に大きく関係しているし、叔母は女城主だったということもピーアールしながら観光客を増やしていきたい。

外国人がみえた場合のマップは、恵那市全体の観光マップで英語、中国語、韓国語のものがある。岩村のマップも、英語のものを最近リニューアルしたので、それも利用していただきたい。外国人を案内する、外国語を話せる、英語を話せるガイドもいる。頼まれたことは今まで1、2回しかないが。そういう対応もこれから増やしていきたい。

■司会 ほかにお話しできることがあれば。若い子が入るお店が少ないということも言っていたが。あと、駅の整備などについての質問もあった。

■会長 駅の整備は、今岩村駅をボランティア的に管理しているところがあるので、そこでお話をして、できることはみんなで協力してやるということで考えていく。

■司会 また後で市からも御意見をいただく。ちょっと回答にはなっていないと思うが、そういう面があったら、私たち大人とは見る目も違うと思うので、いろいろ教えていただければありがたい。

全体を通してのご意見等

■司会 一般の皆さんから、御意見があれば。

■市民6 若い人たちが一生懸命まちづくりに邁進しているときだが、こんな年寄りの願望を述べる。今までまちづくりに携わっていたことを振り返ってもらいたい。女城主をお願いしている渡辺美佐子さんは年に1回ぐらい行事に顔を出していただいて、里帰りということでお願いできればと思う。一昨年、市長がよく東京へ行かれるときに出会って2回ほど来ていただいたが、今年はまだなので。

もう一つは、岩村城跡は百名城に選定され、その中で、奈良の鷹取、備中松山城の交流を続けて行ってほしい。

もう一つは、中学生がボランティアもやっている中で、岩邑中学校を残してほしい。岩村の街なかばかりではなく、周辺には大きな課題が飯羽である。太陽光、国の施策もあると思うが、20町歩の開発で、地元では心配している。

■会長 渡辺美佐子さんは、昔の岩村町時代のようにはならないが、市で連絡を取り合っていると思っている。それについては後で市長に話していただきたい。

中学校の件は、教育委員会に伝えておく。太陽光の件は、3区の区長から相談に乗ってほしいという話は受けている。

■市長 最近BSで朝ドラを見る癖がつき、今は「なつぞら」、その前は「おしん」で、渡辺美佐子さんの若かりし頃を見て感動している。美佐子さんとはときどき連絡を取って、舞台があるときにはなるべく見に行くようにしている。また機会をみてお越しくささいと伝える。その節は岩村町の皆様こそって盛り上げていただきたい。

■市民7 やましろやを開店させていただいた。ささやかだが、実際に商売をやっていると、たくさんの市町村、県外の人が見える。私は必ず、「どちらからいらっしゃいましたか」とお話をさせていただく。商売そのものよりも、ほかの方とお話をさせていただき、岩村町を知っていただけたらという思いから開業した。

岩村町の観光としての魅力と活性化という題だ。先ほど高校生、中学生が大変良い意見を言ってくれた。ボランティアを進んでやりたいと。涙が出るぐらいのすばらしいことだ。それに負けず、大人も、もっともっとたくさんの企画する委員会があるにもかかわらず、もっとたくさんの人を巻き込めるチャンスが少ないと思っている。私も協力しようという気持ちがあるが、声がかからない。なぜかは分からない。それぞれの委員会は長年の苦勞もあり、すばらしいと思う。新しい人をどんどん巻き込んで、その輪を中学生、高校生も含めて、他町村も含めて、その輪を大きくしていくことを考えれば、もっと観光も大きくなるし、恵那市としての中の一部、やはり一番の観光資源は岩村城と城下町だと思うので、その辺にもう少し力を入れて、本当の実のある観光を皆さんに楽しんでいただく町にしたいと思う。

■会長 岩村町の各事業は実行委員会方式でやっているのだから、実行委員会からボランティア募集するという形を採っていただければ幅が広がると思う。運営協議会の会議で、そういう話をテーマとして一線で活躍している人にお話ししたいと思っている。今後よろしくをお願いします。

■市民8 我が家も含めてこれから10年、20年の間に岩村町の各旧家で持っている書物、資料が分散する危険性があると思う。次の世代が管理できない。その資料を今の資料館に出すつもりはない。資料館の倉庫がどうなっているか、一度見てほしい。がらくたの山で、全く整理されていない。あれではなくなっても不思議ではない。岩村町のときからの文化財の絵馬がある。お宮に奉納されていたものだ。これがどういうところで保管されているかちょっと調べてほしい。今は恵那市の文化財になっているものだ。それが資料館の倉庫にない。どこにあるのか。

それと、これを言うときにいつも思うが、中山道美術館と岩村の資料館を比べると、中山道美術館には専門の学芸員がみえて若い学芸員が次から次へいろいろなアイデアを出して展示会をやっている。岩村は、職員がいない。管理人がいるだけだ。だからそういうことができない。確かに中山道美術館の版画は大変なものだ。けれども岩村でもそれに負けない資料がある。けれどもそれがきちんと管理されていない。多分中山道美術館では絵が桐の箱に入ってちゃんとストックされているので、企画展をやるときにはその作品がすぐ出てくる。岩村でやろうとすると倉庫を引っくり返さないといけない。だから、各家庭が持っている資料、書物は、もう2、3軒のものが分散している。3年前まではこの家にあったが、子どもたちが外へ出てその家が他人の手に移ったら、そこにあった書物が分散した。行政でも力添えしてほしい。旧岩村振興事務所の跡地利用とも兼ねて、広いところで整理しないとできない。実践女子大の資料室の中に入れてさせてもらったが、本当にきれいに整理されている。図書館が持っている貴重な本がきちんとある。誰が見ても分かるようになっている。でも、岩村歴史資料館の資料室は物置と同じだ。こんなことでいいのか、皆さんに知ってほしい。

■会長 文化財の保護は、市長にお願いしたのだが、恵那市では文化的な学芸員は専門の人がいないので、昔から言われていることだが、学芸員を採用していただくといいなという事は、今のような意見が出なくなることに通じるし、専門職は大変だが、学芸員を雇うということを少し考えていただきたいと思う。

■司会 市から意見ををお願いします。

■まちづくり企画部長 意見交換会では3つの部会から城下町岩村の魅力アップという視点で現在の取り組み、課題の報告をいただいた。中学生、高校生からは、それぞれ提案をいただき、目新しいもの、なるほどというものの中にはあった。岩村町の観光まちづくりについては平成25年度に、岩村のグランドデザインというのを作っている。地域計画でも、観光のまちづくりという視点の中では、これを進めていこうというのがあったと思う。改めて内容を見てきたが、できているもの、できていないもの、いろいろあった。そういった中で、このグランドデザインは、短期、中期、長期と、実施年度が分かれています。短期は平成26年から平成30年度まで、中期が平成31年度から令和5年度、長期がそれ以降という区分だ。ちょうど、短期の前期部分が終わった段階で、これから中期に入っていく中で、恵那市も観光のまちづくり指針が平成27年度で終わっており、それ以後計画されていなかった。本年度恵那市観光ビジョンを新しく作り恵那市全体で観光をどうしていくかということを改めて作り直す。

市もそういった大きな転機にあるし、今日の懇談会もいろいろな意見が出ている。また、

ここ1、2年、作っただけではなくて、やはり見直しが必要になってくると思うので、そういったところも視点に入れていただき、これをベースに、一つのバイブルとして岩村町の観光まちづくりを進めていただけたらというお願いだ。

私も今年で定年退職になる。来年はきっとそちら側で皆さんと一緒に作ることになると思う。その節はよろしく願いいたします。

■副市長 感想を話す。高校生が出てきたのは、明智、山岡、ここの3カ所だ。いずれも高校生が話したのは、まちづくりに参加したいと思ってもその話が来ていない。あるいはボランティアの参加者が少ないと言われるが生徒には話が来ていないと。やはり生徒や一般の人がなかなか参加できるようなアプローチをしていないし、話が行っていないということだろう。もう一方で、ボランティアに出てきてくれた人に、労働力みたいな考え方をすると、やはり継続が難しいと思うので、ぜひボランティアへのアプローチの仕方は丁寧にやってほしいし、その期待に応えられるような形で参加させていただけたらありがたい。

学芸員のこと。定年間近の人で学芸員が市役所にも数名いる。そういうこともあり、この3年ぐらい前に採用している。ただ、恵那市のような小さなまちで学芸員候（そうろう）と言って採用するのは人数としては難しいが、全体としては、若い子たちに期待したいのは、恵那市の全体の文化財の考え方をちょっと考えてほしいということで採用したので、温かく育てていきたいと思う。

■市長 まず感想を述べる。中学生の2人。公園があつたらいい、ボランティアの活躍できる分野を作つたらいいという意見。こんなところは、地域の皆様も一緒になって考えていただき、中学生の考えていることを汲んでみていただきたい。高校生からは、若い人が行けるような店がほしいとか、もっときれいにしたらどうだということもあった。外国人の観光客に向けたサービスが十分じゃないということ。非常に大切な視点だ。おそらくサービスを供給する側とサービスを受ける側、要するにお客さん、どちらかというとき皆さんが考えているのは、お客さんとしての目線でこういうのが足りないという話だった。マーケティング、商売をする、人に来てもらう、人に好かれるためには、サービスを供給する側はやっているつもりでも、実際にはそれはお客さんに届いていないことがたくさんある。こうした少しの意見でも拾ってそれを直していくことで、お客様にとって満足度が上がるということがあると思うので、ぜひそんなところを汲んでいただけるとありがたい。

ただ、岩村のまちは恵那市の中、もしくは岐阜県の中でもトップクラスでポテンシャルがあつて、歴史、文化があり、観光では多くのお客様に来てもらえる可能性が一番高いまちである。これをどう生かすか。今、中学生、高校生、皆さんがおっしゃったいろいろな思いを少しでも形にしていくことだと思う。

イベントの多さも恵那の中でこの地域が一番だと思う。一年を通していろいろなイベン

トをやっていたらいい。大変すばらしい取り組みだしこれからもぜひ続けてほしい。外部から来るお客様に対するサービスという意味でのイベントもあるだろうが、もう一つの大切な視点は、高校生、中学生、小学生の子どもたちにとってどんな思い出が残せるか。僕たちが小さかったときには大人たちはこんなことをしていたな、というのが次世代につながるための第一歩で、記憶の中に残せるようなイベントをこれから子どもたちに残していけるか。そんなところも視点の一つとして捉えていただきたい。

恵那高の校長先生が、中山道を歩く外国人がどんどん増えてきた中で、恵那高の生徒を案内する子どもたちとして使ってほしいという話をしていた。外国人の対応がと言った君こそが、英語を話して、土日に街に出て、外国人に「困っていることはないですか？ 私が案内しましょう」と言ってもいいはずだ。外国人にとっては、君たちのような子たちが笑顔で対応してくれたら、おそらくもう一度来ようと思うのではないかな。皆さんの活躍できる場はたくさんある。

振興事務所のこと。旧岩村振興事務所の活用も含めて岩村町のまちづくり、まちづくりの拠点としてのまちの整備、振興事務所、城跡、こういうところの活用をどうするべきか、ぜひ地域の皆さんで考えていただいて、こうしたいという意見のまとまりを私は待ちたい。そうしたまとまりをもって私たちは市としても一生懸命応援できることをしていく。今日のすばらしい場をこれからもぜひ重ねていただき、地域として一つの方向性を見出していただけたらと願います。

■司会 本日意見が言えなかったことは、受付にある紙に記入して帰りに出してくれれば、返答ができると思う。運営協議会にもたくさんの課題が突き付けられたような気がする。

本日のまとめを事務局です。

■協議会事務局長 長時間ありがとうございます。本日の意見交換会は、岩村の地域計画「消滅しないぞ、岩村」を目指してこれからどうしていくかということで、今日は城下町岩村の魅力アップということで皆さんからたくさんの御意見をいただいた。

今、岩村町では地域計画の見直しの作業をしている。令和3年度から後期計画になる。それに向けて運営協議会では現状と課題についての洗い出しをしている。今日皆さんからいただいた御意見等を地域自治体の今日の部会で一つ一つの意見についてきちんと検証なり汲み上げたりして次の計画に反映させていきたい。今日この場で意見を言えなかった方も、振興事務所に意見をいただければ考えていきたい。

特に、今日は中高生からいろいろな意見をいただき、大人も意見を聴いて気付くことも多かったと思う。それから、改めて岩村のポテンシャルというか、まだまだ磨き上げれば大きな資源になるものがたくさんあることに少し気付いた点もあると思う。そういったところで地域を盛り上げていければと思っている。

先ほど出た意見の中で、飯羽間の太陽光発電のことがあった。これについて皆さん心配

しておられる。今の状況を説明する。業者が経済産業省のFIT法で発電事業を始めるという届け出が出て、すでにできる状態だ。場所が山林で、林地開発について県の許可が必要で、その申請が行われていた。その許可が先月末に下りている。これから事業が本格的に動き出す状況にある。ただし、そこではやはり地域住民に十分な説明と理解を求めるということが付帯として出ている。これから地域に対して事業者側から説明が行われる。また、市でも昨年度条例を作り、きちんとした形でやっていただくということになっているので、振興事務所でも、自治区や自治連の皆さんと協力しながら、できる限り地域住民の不安を少しでも解消できるような形でやっていきたいと考えている。情報提供等については、自治連等を通じて行っていく予定だ。

全体を通してのご意見等

■司会 本日の懇談会の感想を、受付で配布した紙に書いて出していただきたい。もう一つ、岩村城址の薪能を8月24日に開催するので見に来てほしい。8月19日にはコミュニティセンターで能の勉強会も開催するので来ていただきたい。

市長お礼のあいさつ

■市長 本日はありがとうございました。本日いただいた意見は必ず受け取って関係部署に届け、時間をかけてでも動かしていく。この場で言えなかったことがあれば紙に書いて振興事務所や地元のまちづくり企画部長に届けていただいてもいい。必ず目を通して対応する。引き続きすばらしい岩村町になるように皆様と一緒に汗を流したい。

閉会

■協議会会計 長時間ありがとうございました。こうしてたくさんの方々、自分たちのまちは自分たちで守るという根本的考え方の下に足を運んでいただき、耳を傾け話し合い、一丸となってやっていくことが大切だと思う。これから協力をお願いします。これで閉会する。

[閉 会]